

リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校（鹿児島県）【指定校】

【GIGA×指導の工夫・改善】 学習支援ソフト等の活用による生徒の学習状況の見取り

<考察>

① 課題等の提出について

学習支援ソフトで課題を提出させることで、教師が提出状況を確認をしやすくなる。また、課題の進み具合を簡単に可視化でき、間違ったところなども把握しやすいので、生徒一人一人のつまづきを把握するのに有効である。さらに、添削やコメント入力等を時間があるときに少しずつ行えるので、生徒一人一人に対して丁寧な指導ができる。

② 共同作業について

生徒グループ内の全員が一つの作業をすることで、協働的な学びの深まりが期待できる。また、教師は作業の進み具合や内容が正しいかどうかを端末上で常に見ることができるので、適切なタイミングで指導・助言を行える。さらに、生徒が作成しているデータの内容を見ることで次の指導で何に注力する必要があるか教師が把握しやすくなり、授業改善につながることを期待できる。

英語における学習支援ソフト等の活用

- ・ 学習支援ソフトによる英作文の提出
- ・ 学習支援ソフトによる音読やプレゼンテーションなどのパフォーマンステストの実施
- ・ Google DriveやMicrosoft Teamsでの共同作業によるプレゼンテーションの作成

理科における学習支援ソフト等の活用

- ・ 学習支援ソフトによる課題や実験レポートの提出
- ・ Microsoft Teams内のファイルへの実験データの入力
- ・ Microsoft Teamsでの共同作業によるプレゼンテーションの作成

保健における学習支援ソフト等の活用

- ・ 探究的な活動において、パワーポイントで資料を共同で作成して提出・発表